

薬学委員会

チーム医療における薬剤師の職能とキャリアパス分科会（第24期・第3回）議事要旨

日時 平成30年10月11日（木）15:00～17:00

場所 日本学会会議6階 6-C会議室（1）

出席者 平井みどり、望月眞弓、入江徹美、堤 康央、橋田 充、安原眞人、矢野育子

参考人 橋田 亨（神戸市立医療センター中央市民病院 院長補佐・薬剤部長）、山田清文（名古屋大学医学部附属病院薬剤部 教授）

議事

1. 前回分科会議事要旨案の確認を行った。
2. 参考人から、薬剤師レジデント制度についてのレクチャーがあり、意見交換を行った。
3. 年内に分科会を開催し、シンポジウムの開催について相談する。
4. 今期中に報告書をまとめることを確認した。

会議メモ

資料1 「薬剤師レジデント制度～わが国の現状と課題～」橋田 亨

資料2 「卒後初期研修としての薬剤師レジデント制度の現状と課題」山田清文

論点：

- ・ PG1（一般コース）とPG2（医療薬学専門コース）がある。
- ・ PG1 の範囲はどうするか？臨床に関わる人はみんな行うのか or 米国のようにエリートを養成するのか？
- ・ 研究の必要性はどうするか？
- ・ 薬局薬剤師用のレジデントプログラムとして、インテンシブコース（3 ヶ月）でも良いのでは。
- ・ 薬局との研修の交換プログラム（薬局に在宅の研修をさせてもらい、代わりに無菌調製の実習を提供する）も良いのでは。
- ・ レジデントの進学率：米国 14% vs. 日本 150 人/9000 人=1.7%
- ・ レジデントの成果をデータで示す必要がある。
本人にとっては？病院にとっては？社会にとっては？
- ・ プログラムを統一する必要性。➡専門薬剤師の認定要件に使える等。
- ・ レジデントの給料はどうするか？
厚労省の概算要求？
病院だけでは難しいので、外部を巻き込んで行う。

今後の方針：

- (1) 卒後教育の理念を明らかにする。
- (2) 薬剤師のキャリアパスとして、
レジデント ➡ 認定薬剤師 ➡ 専門薬剤師 のパスウェイを明確にする。

その他考慮すべき点：

- ・ 多様性を認める。
- ・ 女子学生への対応

以上。